

## 1 協議事項

### (1) 令和7年度学校評価書（統合版）について

### (2) 令和8年度入学生に対するスクール・ポリシーについて

第1回学校運営協議会において、令和7年度学校評価書（統合版）及び令和8年度入学生に対するスクール・ポリシーについて協議を行った。

## 2 説明の概要

### (1) 令和7年度学校評価書（統合版）について

司会から、令和6年度学校評価書冊子については各分掌で作成してきたが、分量が多く、焦点が絞りにくいという課題があったため、今年度は内容を整理し、A3判1枚の統合版として作成した旨の説明があった。あわせて、本統合版について委員から意見をいただきたい旨の提案があった。

続いて、別紙に基づき詳細説明が行われた。

【1】では、モデル授業等を通して教員の授業力向上を図ること、その前提として環境整備を進めること、また教員と生徒との面談を活用していくことについて説明があった。

【2】では、様々なガイダンスを実施していること、特に②は高校の得意とするところであり、生徒の職業観を高めていきたいこと、さらに③として、生徒の興味・関心に結び付くキャリア教育を推進していきたいことについて説明があった。

【3】では、協働することによる認め合いの重要性について説明があった。また、熱中症対策は昨年度から生徒の安全に関わる重要なキーワードとなっていることから、今年度の体育祭は9月末に実施することとした旨の説明があった。あわせて、チーム支援のための教員研修を実施し、それにより好循環を生み出し、学年及び学校全体で共有していく方針が示された。

### (2) 令和8年度入学生に対するスクール・ポリシーについて

委員から、資料p.15にあるスクールミッションは県との相談の上で決まっていること、その上で、今後は「育てたい生徒像」をしっかりと見直し、その後、学びの内容・方法及び求める生徒像についても変更に合わせて見直していきたい旨の説明があった。

また、学校経営計画書 p.9 に示されているミッションと、統合版に示された取組内容が連動している必要があること、例えば最終年度の取組については、単なる方針にとどまらず、3年間でどのような成果が上がったのかを具体的に示すことが望ましいとの説明・問題提起があった。さらに、学力向上の取組やキャリアパスポートの活用など、学校経営目標との結び付きが明確になるよう整理すべきであるとの方向性が示された。

学校側からは、学校経営計画書 p.15 にある「社会の変化に対応し、地域に貢献する生徒を育てる」という文言が本校ミッションの中核であり、この方向性は今後も変わらないこと、また「3つの力」はミッションそのものではなく、その達成に向けて生徒に身に付けさせたい資質・能力であることが説明された。

### 3 主な意見・質疑

#### (1) 令和7年度学校評価書（統合版）について

委員からは、先生方の頑張りが評価書に表れているとの意見があった。また、議長から、統合版での評価としてよいかとの確認があり、委員からは概ねよいとの意見が出された。一方で、次回に向けて一部修正を加えるとよいとの意見もあった。

#### (2) 令和8年度入学生に対するスクール・ポリシーについて

委員からは、創立以来引き継いでいることや言葉があるのであれば、恒久的な内容として盛り込んでどうかとの意見があった。

また、個人主義が進み、地域がまとまりにくくなっている現状の中で、本校の強みは専門分野を有し、多様な生徒が集まっていることにあり、その多様性を理解した上で社会に出ることが大切であるとの意見があった。

さらに、スクールミッションの内容はどこ的高校でも記載され得る内容に見えるため、少子化の中で、地域に必要とされる学校として、本校ならではの魅力や特色がより明確に伝わる表現が必要であるとの意見があった。

生徒像の表現については、「挑戦」「習得」「取得」「高い志」「高い意識」などの言葉だけでなく、その先にどのような生徒に育ててほしいのかが見える表現にする必要があるとの意見があった。特に、普通科高校との違いとして、多様な目標を持った生徒が同じ場所で学び合う中で、多様な考え方を身に付けられることが本校の魅力であること、また、頑張ろうとする気持ちを応援してくれる学校であることが、中学生にも伝わる分かりやすい言葉で示されるとよいとの意見があった。あわせて、「考える力」や「自分で発信する力」といったイメージも大切であるとの意見があった。

また、p.9の「協働する力」の中にある「適切なコミュニケーション」という表現については、年代や場面によって意味合いが異なるため、より具体的な表現に改める必要があるのではないかとの意見があった。これに対し、学校側からは、小さな子どもや高齢者との関わりなど、世代間のコミュニケーションを想定していることが説明され、その意図が伝わるよう、「適切な」の前に具体的な言葉を加えるなどの工夫が必要ではないかとの考えが示された。

最後に、今後の進め方については、県教育委員会とのやり取りも踏まえながら、年度末を目標に時間をかけて修正・整理を進めることが提案された。これに対し、委員からは、拙速に結論を出すのではなく、十分に議論を重ね、来年度の学校経営に反映させていくことが望ましいとの意見があった。また、今年度分についても微調整の可能性があることが確認された。

### 4 まとめ

以上のとおり、令和7年度学校評価書（統合版）については、A3判1枚の統合版で進める方向について概ね了承を得た。今後は、委員の意見を踏まえ、必要に応じて表現や内容の修正を行うこととした。

また、令和8年度入学生に対するスクール・ポリシーについては、スクールミッションの中核は維持しつつ、本校の特色や育てたい生徒像がより明確に伝わる内容へ見直していく必要があることを確認した。今後は、学校評価書との関連性、表現の具体性及び中学生にとっての分かりやすさにも留意しながら、県教育委員会との協議を含めて検討を進めることとした。

## 1 協議事項

### (1) 令和7年度学校評価書（中間報告）について

第2回学校運営協議会において、令和7年度学校評価書（中間報告）について協議を行った。説明は統合版（A3版）を用いて行われた。あわせて、達成基準欄の下半分については学校自己評価アンケートの結果をもとに評価する予定であること、中間評価（案）については後の協議で確定することが説明された。

## 2 説明の概要

### (1) 中間期の達成状況について

【1】教員の授業力向上等に関する取組については、ICT研修に30名が参加したこと、10月23日に生成AI利活用研修を実施予定であり、12名が参加予定であること、さらに10月28日にモデル授業研究成果発表会を予定していることが報告された。また、各教科・各科においても、授業改善に向けた様々な取組を進めていることが説明された。

1学年のChromebook活用における通信速度については、現在改善が見られていることが報告された。一方で、評価をCとしている理由については、集めたデータの活用が十分ではなく、特に「学習実態調査」の結果を教員が十分に活用し切れていないことによるとの説明があった。

【2】進路指導等に関する取組については、進路に関わる情報を関係者間で共有していく体制がやや弱いことが課題として示された。また、市民会館で実施した保護者説明会については、参加者が想定より少なかったことから、今後は仕組みの構築が必要であるとの説明があった。

生徒の進路状況について報告があったほか、ボランティア活動については、80種類の活動に427名が現段階で参加していることが報告された。今年度の特徴として、生徒自らがボランティア先を見つけてきている点が挙げられた。あわせて、台湾訪問に向けた取組についても説明があった。

【3】人権教育・生徒支援等に関する取組については、人権講演会の今年度のテーマを「人間関係づくり」に重点を置いて実施すること、また芸術鑑賞については会場を倉敷芸文館に変更して実施する予定であることが説明された。

熱中症対策については、体育祭を9月末に実施したこと、部活動においては給水確認や冷房の効いた部屋でのクールダウンを行っていることが報告された。受診率は現在52%であり、昨年度の70%を下回っていることから、100%を目指して声掛けを行っていることが説明された。また、ウェルビーイングについての理解を深める研修を3学期に実施予定であること、教育相談課の取組についても説明があった。

## 3 主な意見・質疑

委員からは、ICT活用の授業が3年間の指定で終了してしまうことへの懸念が示され、学校独自で継続できないのかとの意見があった。これに対し、学校側からは、指定事業としては終了するとの説明があった。

また、Chromebookの導入について、個人購入であるのか、なぜChromebookを採用しているのかとの質問があった。あわせて、Chromebookは大学や社会に出てからの活用場面が限られるので

はないか、3年間だけで終わることは大きな課題であるとの意見があった。さらに、スタディサプリ等のアプリ利用だけで学力向上や学習習慣の定着につなげることは難しく、授業や塾との兼ね合いも含め、本人のやる気をどう引き出すかが課題であるとの意見があった。

その一方で、本校には生徒の挑戦を応援する姿勢があり、社会で活躍する姿をどのように生徒にイメージさせるかが重要であること、ボランティア活動を通して社会に出ていく経験が生徒自身の将来像につながるとよいとの意見があった。学校側からは、iPadは高価であること、卒業後はiPadの方が使いやすいという声もあるが、費用面の課題があることが説明された。

委員からは、3年生240名のうち30名が就職を希望していることについて確認があった。また、本校には人間性を磨く教育を大切にしてほしいとの意見があり、ボランティアの受入れ先から見て、本校の生徒は礼儀正しい、優しい生徒であると感じてもらえるような学校としての良さが見えるとよいとの意見があった。

これに関連して、学校行事において他学科の生徒が自分の名前を呼んでくれたことに感動したとの話があり、そのような心配りのできる生徒を育ててほしいとの意見があった。

福祉分野について学校側からは、実習前に講師を招いて指導を受けた上で現場に出ていくようにしており、現場で学ぶ場面も多いとの説明があった。

また、家庭学習の習慣づけは家庭においても難しい課題であるとの意見があった。あわせて、チーム支援について、生徒だけでなく教員にも様々な個性がある中で、特別な支援を要する生徒に対する教員間の役割分担がチーム内で適切に行われているかとの質問があった。これに対し、学校側からは、ケース会議を実施し、教育相談課長、担任、専門家等が連携して対応しており、スクールソーシャルワーカーも尽力していることから、チームとしての連携は取れているとの説明があった。

さらに、委員からは、文化祭に参加した際、生徒の雰囲気がよく、学校全体に賑わいがあり、教職員に感謝しているとの意見があった。ICT活用については、個別最適化の面で、苦手な内容を自分のペースで学べるのが利点であるとの評価があった一方で、Chromebookには保護者による制限がかけにくく、YouTube視聴等に使われてしまうことへの懸念も示された。

また、たとえ指定事業としては3年で終了するとしても、本校の特徴としてICT活用を生かしていくべきであり、この3年間をプラスにできる継続の在り方を検討してほしいとの意見があった。スタディサプリからClassiへ変更した経緯に触れつつ、今後も何らかの形で継続できれば、この3年間が有意義な取組であったと位置付けられるのではないかととの意見があった。これに対し、学校側からは、今回の学びを今後も継続していくとの説明があった。

議長から、今回の指定事業は教職員にとって大変であったかとの質問があり、学校側からは、一言で言えば大変であったこと、当初はスタディサプリ限定の取組であったため教員間でも様々な意見があり、継続が難しいことからClassiへ変更した経緯があるとの説明があった。

また、委員からは、地域の歴史や学校の歴史を大切にほしいとの意見があった。地域には臨鉄の歴史や戦争部品を作っていた過去があり、子どもたちにはそうした地域の歩みを忘れず、心を豊かにしながら成長してほしいとの意見であった。学校には歴史を積み重ね、地域に根ざした学校であってほしいとの要望があった。

Classiの費用について質問があり、学校側からは保護者負担であること、スタディサプリより安価であること、保護者への連絡にも活用できることが説明された。また、夜間の連絡については、学校として夜には連絡を入れないよう配慮していることが説明された。

最後に、議長から、受診率について追跡できるのは18歳までであるため、18歳までにきちんと

治療につなげてほしいとの意見があった。あわせて、中間評価について、C 評価はやや厳しめではないかとの発言があったが、学校側からは、C 評価があることで後半に向けて努力につながるとの説明があった。

#### 4 まとめ

以上のとおり、令和7年度学校評価書（中間報告）については、各取組の進捗状況と課題について説明があり、委員からは主として、ICT 活用の継続性、家庭学習習慣の定着、進路意識の形成、ボランティア活動を通じた人間性の育成、チーム支援の充実、地域や学校の歴史を踏まえた教育の大切さ等について意見が出された。

中間評価（案）については、今後の協議を経て確定することを確認した。また、学校としては、委員からの意見を踏まえながら、後半に向けて取組の改善及び充実を図っていくこととした。

## 1 協議事項

### (1) 令和7年度学校評価書(案)について

### (2) 令和8年度学校経営計画書(案)について

第3回学校運営協議会において、令和7年度学校評価書(案)及び令和8年度学校経営計画書(案)について協議を行った。令和7年度学校評価書(案)については、統合版及びスライドを用いて説明が行われ、その後、質疑及び意見交換を踏まえて一部修正を行い、承認された。令和8年度学校経営計画書(案)については、今年度の振り返りを踏まえた修正点や今後の方向性について説明があり、委員から多面的な意見が出された。

## 2 説明の概要

### (1) 令和7年度学校評価書(案)について

#### ① 学力向上について

ICT活用の取組として、教員42名が校外研修に参加したことが報告された。個別最適化モデル事業については最終年度を迎え、リクルート社のスタディサプリを活用しながら、3年次においては教科型、看護専門型、小論文型、就職型の4タイプに分かれて取り組んだことが説明された。積極的に取り組む生徒が見られた一方で、取組状況の二極化も見られたこと、自走できている生徒は25名であり、その背景として、教員によるフィードバックがあったこと、将来の夢が明確であったことが特徴として挙げられた。あわせて、公開授業や動画による取組紹介が行われた。

また、専門学科におけるスマート機器の活用については、教員が「活用している」と答えた割合に比べ、生徒がその学びを「体験できている」と答えた割合との差が大きいことが課題として示された。さらに、学習上の悩み等については心理検査による対応も行っていること、進路指導においては面談の質をさらに高める必要があること、生徒には「役に立ちたい」という気持ちは高い一方で「有能感」が低いことが課題であることが説明された。加えて、学年が上がるにつれて学習意欲が下がる傾向があること、生徒の非認知能力を高めるために教員も研修を受けていることが報告された。

#### ② キャリア教育の推進について

ガイダンスとカウンセリングについては、「学校からの進路情報は参考になるか」という問いに対して、生徒・保護者ともに肯定的回答が上昇しており、それぞれ7.8ポイント、8.1ポイントの上昇が見られたことが説明された。

また、高大連携を活用した取組が進路選択にも役立っていることが示された。ボランティア活動については、延べ1,359名が参加しており、今年度からウェブ申込みを導入したことで参加しやすくなったことが報告された。一方で、活動記録については入力と記入の両方を併用しており、今後はツールの一本化が必要であることが課題として示された。

#### ③ ウェルビーイングについて

豊かな心の育成については、自己評価アンケートにおける「他者を尊重し、いじめなどを許さない行動がとれている」に対する肯定的回答が97.7%であったことが報告された。

健やかな体の育成については、熱中症対策に一定の成果が見られたことが説明された。また、スクールカウンセラーへの相談件数が多く、相談員の増員を検討していることが報告された。

チーム支援については、6月に実施した教職員のストレスチェックでは全国平均を上回る良好な結果であった一方、12月実施の学校自己評価アンケートでは低い結果となっており、差異の背景を踏まえた検討が必要であることが示された。

最後に、総合評価の数値について説明があり、次年度に向けて、明らかになった課題への取組を進めていく方針が示された。

## (2) 令和8年度学校経営計画書(案)について

学校側から、令和8年度学校経営計画書(案)について説明があった。まず、1番目のミッションについては、これまでとは表現を変え、県教育委員会から本校に対して定められた内容をそのまま記載したことが説明された。2番目の本校のビジョン【めざす姿】の欄には、これまでのミッションに当たる内容を移行したことが示された。3番目には具体的な3本柱を掲げているが、柱そのものは変更せず、中の項目を一部修正したことが説明された。

「(1) 学力向上の推進」については、ICTに関する事業は令和7年度までで終了するものの、ICTを活用した学びは今後も継続し、授業改善を進めていく方針であることが示された。また、学科における学びの深化については、生徒がより深く目標や課題をもって取り組むことを目指したいとの説明があった。

「(2) キャリア教育の推進」については、柱の構成自体に大きな変更はないものの、表現の修正として、①では「ガイダンス」を「適切な進路情報」へ改めたこと、②では自己理解、将来の見通し、結果分析、情報収集といった要素を明確にしたこと、③では連携を系統的・計画的に進め、社会で通用する人間の形成を目指したいことが説明された。

「(3) ウェルビーイング」については、①②は大きな変更はなく、③については「落ち着いて学習活動に専念できる環境整備」へと表現を改め、物理的・精神的な環境を整えることで、生徒が安心して学校生活を送れるようにしたいとの考えが示された。

## 3 主な意見・質疑

### (1) 令和7年度学校評価書(案)について

委員からは、冊子形式で多くの評価項目を設ける必要があるのか、統合版のみでよいのではないかとの意見があった。また、達成基準が手立てそのものになっている箇所があるとの指摘があった。

さらに、キャリア教育の推進における①及び②については、数値基準を生徒が上回っていることから、評価をAとしてよいのではないかとの意見が示された。これに対し、学校側からは、今年度から統合版を作成しており、来年度に向けては統合版をメインにしていく予定であるとの説明があった。

キャリア教育①②の評価については、複数の委員からAでよいとの意見があった。委員からは、高校教員の自己評価は厳しい傾向があるのではないかとの意見もあった。これに対し、学校側からは、生徒を十分に伸ばし切れていない感覚があり、上を目指そうとしない生徒も多いこと、進路面にはなお課題があること、データ分析が不十分である点が弱さであるとの説明があった。一方で、議長からは、生徒は学校生活に満足している状況であることを踏まえればA評価に修正してよいの

ではないかとの意見があり、協議の結果、Aに修正することとなった。

また、チーム支援の達成基準について、「学校自己評価アンケート」で相談できる場所に限定するのではなく、「相談できる場所や人」といった表現にすることで、友人等も含めた実態が反映され、評価もより実態に近づくのではないかとの意見があった。これに対し、学校側からも、生徒は互いに相談し合っている実態があるとの説明があり、そのことも居心地のよい学校づくりにつながるとの確認がなされた。

最後に、議長から、評価については先ほど一部修正したとおりでよいかとの確認があり、委員から了承が得られた。

## (2) 令和8年度学校経営計画書(案)について

委員からは、今年度の振り返りを来年度計画に十分反映してほしいとの意見があった。具体的には、普通科において国公立大学進学や高い目標への挑戦が課題となっていることを踏まえ、学校評価書のキャリア教育の項目にも、より高い目標を意識した文言を加えてはどうかとの意見があった。また、評価がCとなっていた項目については、「不安や悩みを解消する」といった表現を入れることや、「自走する生徒」という言葉を学力向上の目標に位置付けることも提案された。

これに対し、学校側からは、学力向上の項目には「あえて自律という言葉を用いている」こと、キャリア教育にはより具体的な言葉を組み込んでいきたいこと、また不安や悩みへの対応については豊かな心の育成や安心・安全につながるよう整理したいとの説明があった。

また、自己評価アンケートで生徒の評価が低かった項目に関連して、学校評価書の特別活動の深化・充実において、異学科交流をさらに進め、生徒同士が互いの活動を見合うことで、自分たちも頑張ろうという気持ちが生まれるのではないかとの意見があった。これに対し、学校側からは、キャリア教育の推進の項目において、すでに学科連携を意識した記載としていることが説明された。

あわせて、教員側は意識して取り組んでいる一方で、生徒にその意識が十分反映されていないように見えるとの意見があり、「あの学校に行けばいろいろなことができる」という学校の魅力が募集にもつながるのではないかとの意見があった。

委員からは、AIの活用が今後さらに広がっていく中で、人間にしかできない教育を一層重視してほしいとの意見があった。また、教員アンケート結果が昨年より低下していることに関連して、資料作成をAIに頼るなど、多忙感の解消に向けた工夫も必要ではないかとの意見があった。これに対し、学校側からは、教員は教えることへのやりがいは感じているものの、成果がまだ十分に見えないことが背景にある可能性があること、昨年はICT活用の新規性もあり、意欲的な取組として評価が高かった面があるとの説明があった。

さらに、委員からは、生徒アンケートから「社会に役立ちたい」という気持ちは高いが、向上心が低く、挑戦する力が弱いことが気にかかるとの意見があった。そのうえで、悪い面を改善することだけに焦点を当てるのではなく、良いところを伸ばすことが状況転換につながるのではないかとの考えが示された。また、子どもたちが生成AIを学びの相手とする時代になっており、従来の常識が通用しにくくなっていること、教員は知識を教える立場からコーチングする立場へ変化していく可能性があること、自分自身をしっかり持ち、困難を乗り越える力を育てることが大切であるとの意見があった。

地域との関わりについては、委員から、地域の人や学校名で活動を見ているため、これからも地域に密着した学校であってほしいとの意見があった。地域に根ざし、地域で活躍する人材育成を進

めてほしいこと、文化的な面での活躍も期待したいとの意見があった。加えて、学校評価書については文字が小さく、和製英語が多いとの感想も示された。

また、委員からは、職業柄、女性の健康や少子化対策が気になること、自尊感情や自分が生きている価値を育んでいくことが大切であること、子どもたちが将来子どもを育てていく人生観も含めて考えられるような教育を、中長期的視点で行ってほしいとの意見があった。

他の委員からは、先生も生徒も頑張っているのだから、もっとよい評価でもよいのではないかとの意見があった。また、PTA 会長として様々な会に参加した中で、ボランティアへの積極的な参加は大変素晴らしいと感じたこと、教職員が時代に合わせて生徒のことをよく考えていると感じていること、今後さらにより学校になっていってほしいとの意見があった。卒業後も本校に意識を向け、何か役に立てることがあれば協力したいとの意見もあった。

最後に、議長からは、生徒の意見、教員の意見の双方を聞きながら学校経営計画書が作られていることは大切であり、今後も達成可能なパーセンテージであるかを考えながら目標設定をしていくことが望ましいとの意見があった。

#### 4 まとめ

以上のおり、令和7年度学校評価書（案）については、学力向上、キャリア教育の推進、ウェルビーイングの3つの柱について説明が行われ、委員からの意見を踏まえて一部評価の修正を行ったうえで承認された。特に、キャリア教育の一部項目については、実績や学校生活への満足度等を踏まえ、評価をAに修正することとなった。

また、令和8年度学校経営計画書（案）については、ミッション及びビジョンの整理、各柱の表現の見直し、今年度の課題を踏まえた方向性について説明が行われた。委員からは、自律した学びの育成、進路意識の向上、異学科交流、安心して学べる環境づくり、地域に根ざした学校づくり、人間にしかできない教育の重視など、多様な観点から意見が出された。

今後は、これらの意見を踏まえ、次年度に向けてより実効性があり、本校の特色が伝わる学校経営計画の推進を図っていくこととした。